

■普及所から⑥〇■

冬季の鉢花の管理について

寒さの厳しい日が続きますが、鉢花が冬越しするように上手に管理をしましょう。

鉢の置き場所は、日陰で育つものを除いて、植物は光を葉に受けることによって生育するので、なるべく日当たりのよい室内や縁側に置きます。また、風の強い暖かい日には少しでも日中は戸外に出して、ときどき直射日光に当てるのも元気に育てるコツです。日の当たらないところでは、軟弱になり徒長してしまいます。



夜間は、冷えない場所に置くか保温する方法を考えましょう。戸外でも冬越しできる秋植球根類なども、室内に取り入れると早く花が楽しめます。

また、一般に冬期の管理で失敗しやすいのは水やりです。冬の間は気温が低く光線も弱いために葉からの蒸散作用が少なく水分を必要としないので、やり過ぎないように注意してください。水のやり過ぎは根腐れをおこし、寒さに対する抵抗が弱まります。水は不足ぎみに管理するのが無難です。鉢の置き場所によって異なりますが、一般には三、四日に一回、寒さに弱い熱帯花木などは六、七日に一回ぐらいたん安にするもの、鉢土が乾くようであれば水やりをします。

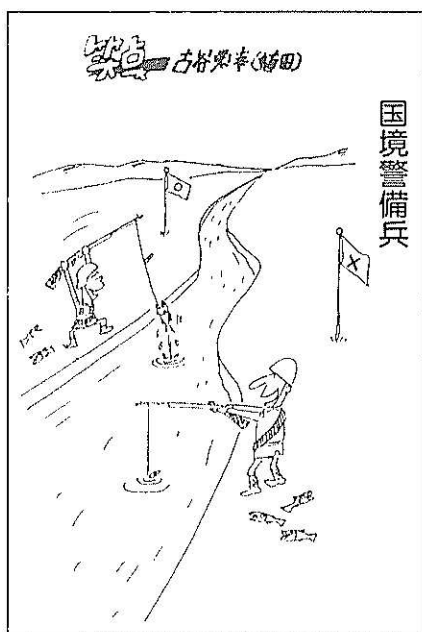
肥料は、液肥の五百倍液を月に

一回施します。しかし、ほとんど生育していない種類には施さないようにします。

また、三月中旬以降になると気温も和らぐため、比較的寒さに耐えるものは暖かい日には外に出して、だんだん寒くするようにします。寒さに弱い熱帯花木などは気温が上昇してくる四月中旬ごろ、寒い風が吹かないようになってから外に出して、肥料や水もだんだん多めに施して育ててください。

【南国農業改良普及所】

国境警備兵



南国歌壇

「曠平展」を出て来て現実へかへらむか 頭を垂りてひとり踏む 麓生さぬ兄妹ら競いてわれに差し伸ぶる 直き心は産みよりも濃き

西野田 吉川 定子

植野 永野 美由

口半ばあけてより添い眠る妻と 四十年過ぎ札幌への旅

下野田 中島 富義

あどけなき目にもの言へばうんうんと 小さき命に溢れくるもの

前浜 沢田 千恵子

厄除けの段に硬貨を置き終へて 振り返るわが長き道のり

甘枝 門田 美枝子

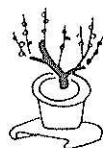
「青年の主張」をすかしく述べて みずからに 踏みし若きの一步 繰よふ

十市 山本 恵彰

南国柳壇

ターミナル帰省客らは顔で指す 三品 井沢 正子

里改田 田所 千枝



南国俳壇

時にちいさな渦巻く落葉父の墓 落葉の貼り紙一つ冬の虹 浜田 妙 山崎 勝子 松瀬 寛子 (柿の実会) 竹田 明代 小松 千都 楠瀬 秀子 (花びら俳句会) 岡田 寿子 福井 英子

森本 三三 (南国市民句会) 浜田 妙 山崎 勝子 松瀬 寛子 (柿の実会) 竹田 明代 小松 千都 楠瀬 秀子 (花びら俳句会) 岡田 寿子 福井 英子